

研 究 分 野	資源管理	部 名	漁業開発部
研 究 課 題 名	沿岸魚類資源動向調査（ヒラメ稚魚分布密度調査）		
予 算 区 分	県単 漁業調整費		
試験研究実施年度・研究期間	平成 1 1 年度～		
担 当	吉田 雅範		
協 力 ・ 分 担 関 係	なし		

〈目的〉

本県沿岸域における天然ヒラメ着底稚魚を対象に試験操業を行い、継続的に分布密度を把握し、天然ヒラメの資源動向把握に資することを目的とする。

〈試験研究方法〉

調査地点を図 1 に示した。日本海、太平洋ともに水深 5m 及び 10m 各 4 点合計 8 点で調査を行った。調査月日は日本海が 2006 年 7 月 31 日、8 月 14 日、9 月 4 日、太平洋が 8 月 8 日、9 月 12 日であった。民間船を使用し 2 ノット前後の速度で原則として 10 分間桁網（水工研Ⅱ型）を曳いた。入網した異体類を氷冷した後、種ごとに尾数と重量を測定した。ヒラメ稚魚については全長、体重を測定した。なお、曳網距離は GPS で求めた。

〈結果の概要・要約〉

表 1 に 2006 年の調査地点別採捕密度を示した。漁獲効率を 0.28 として水深別の平均分布密度を求め、最高値を着底指数とした。図 2 に着底指数の推移を示した。2006 年の着底指数は日本海が 211 個体/ha、太平洋が 28 個体/ha と低いレベルであった。

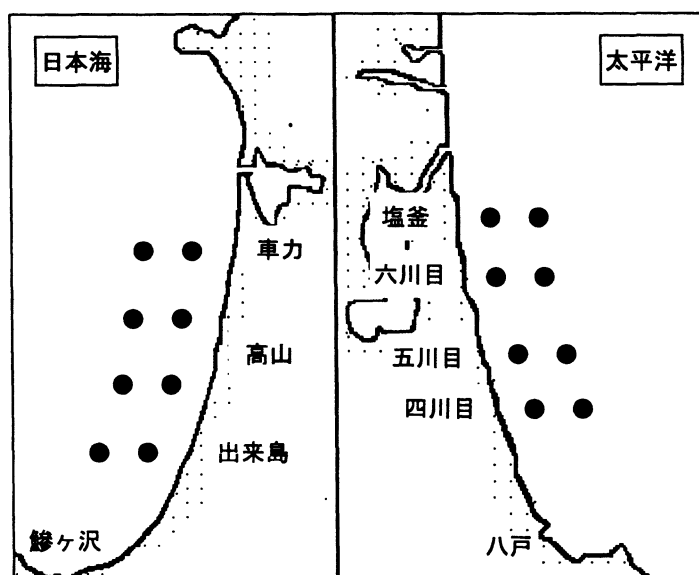


図 1 調査地点

〈主要成果の具体的なデータ〉

表 1 調査地点別採捕密度（個体/ha）

日本海

調査日/場所	5m (7.5～8m*)				10m			
	出来島	高山沖南	高山沖北	車力沖	出来島	高山沖南	高山沖北	車力沖
7月31日	53.3	-	46.9	7.6	17.7	11.9	17.8	6.5
8月14日	-	40.0	56.7	80.5	65.7	58.7	24.3	29.0
9月4日	37.2	58.4	54.0	17.1	37.5	0.0	6.5	13.3

*8月14日高山南、高山北は水深7.5m

*9月4日出来島、高山南、高山北は水深8m

太平洋

調査日/場所	5m				10m			
	四川目	五川目	六川目	塩釜	四川目	五川目	六川目	塩釜
9月12日	0.0	0.0	0.0	0.0	24.9	0.0	6.9	0.0

*8月8日は全く採捕されなかった。

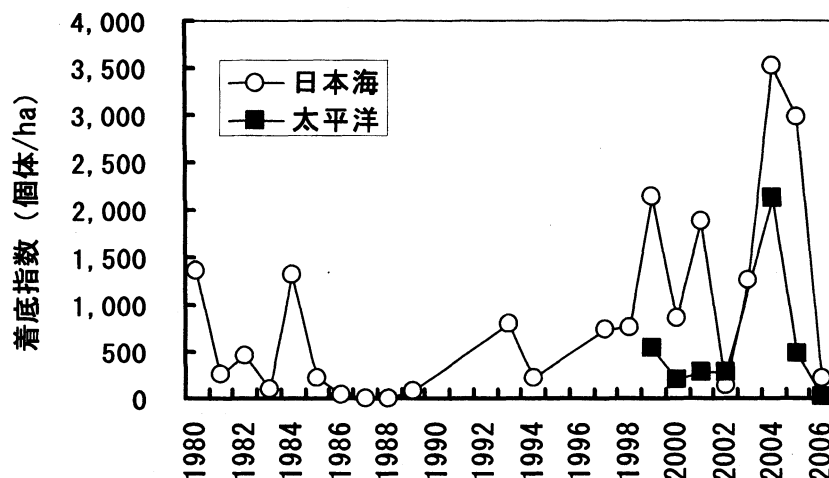


図 2 着底指数の推移

〈今後の問題点〉

ヒラメの浮遊期間、着底サイズ、アミ類の分布量等を調べる必要がある。

〈次年度の具体的計画〉

- ・同様の調査を行う。
- ・ヒラメ稚魚発生量を決定する要因について調べる。

〈結果の発表・活用状況等〉

資源管理、栽培漁業を進めるうえで本調査結果を当年ヒラメ加入量として使用する。